

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第24期・第2回）議事録

日時：平成30年4月6日（金） 10:00-12:00

会場：日本学術会議 5C(1)(2) 会議室

出席者：春山成子，石川徹，伊藤香織，伊藤悟，植松光男，小口高，奥村晃史，小嶋智，近藤昭彦，齋藤文紀，佐竹健治，篠田雅人，杉田文，谷口真人，津田敏隆，氷見山幸夫，平田直，村山祐司，村山泰啓，森田喬，山形俊男，山川充夫，山田育穂

スカイプ参加：鈴木康弘，張勁

欠席者：石川義孝，高橋桂子，碓井照子，沖大幹，川幡穂高，寶馨，佃栄吉，中田節也，橋口公一，安成哲三，矢野桂司，山岡耕春

配布資料

資料1. 地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第24期・第1回）議事録（案）

資料2. データ可視化とデータ利用シンポジウム企画案

資料3. 地球人間圏夢ロードマップ（2014）

資料4. 日本地下水学会夢ロードマップ

資料5. 第5期科学技術基本計画の概要

資料6. 地球人間圏夢ロードマップ（案）

資料7. Future Earth および Future Earth アジア地域センターについて

資料8. 講演資料「乾燥地災害学の体系化」

議題

1. 前回議事録案確認
2. 講演 篠田雅人委員「乾燥地災害学の体系化」
3. 24期開催予定の公開シンポジウム「データ可視化とデータ利用」について
4. 地球人間圏科学の夢ロードマップ改定について
5. 23期引き継ぎの学術書出版の状況について
6. その他

議事に入る前に春山成子委員長から，4月3，4日に開催された日本学術会議

総会での議論のうち関係の深い次の2項目について報告がなされた。

「学術の大型研究計画マスタープラン2020」に関する分科会が発足した。地球惑星科学分野についてはヒアリングが3月28日に開催された。

副会長から次の2点について依頼があった。i) 各部署で、SDGsに関する学術の社会への貢献などを取りまとめ。ii) 各部署でのジェンダー関係の分科会を設置。

議題 1.

前回の議事録(案)を確認し、了承された。

前回の分科会では議事6で今期の重点課題についてブレインストーミングを行なった。その取りまとめ結果に関する追加、修正が求められた。

議題 2.1.

篠田雅人委員から「乾燥地災害学の体系化」と題して講演がなされた。

モンゴルにおける研究から、マルチハザードアプローチの概念が必要であること、ゾド災害が牧草の生育不良→家畜死→人間社会の健康問題という連鎖を起こしていることなどが紹介された。その後、質疑応答がなされ、ゾド災害への社会経済的な影響や研究プロジェクトの国際連携などが議論された。

議題 2.2.

谷口真人委員の前回の講演が、スカイプの調子が悪く聞き取りにくかったものもあったため、「Future Earth 2017」と題して補足講演が行われた。

今後の計画として、5/20のJpGUにおけるFuture Earthに関するユニオンセッションの開催、9/25-28に福岡でWSSF(World Social Science Forum)が開催されることなどが紹介された。

谷口委員自身の研究内容の紹介がなされた。エネルギー、水、食料という3つの資源は相互に互換・依存している関係があり、さらに環境問題と経済問題としてもトレードオフの関係がある。3つの資源のやりとりの国際的な関係や熊本を例にした水資源利用の研究が紹介された。その後、質疑応答がなされ、ESDとの関連などが議論された。

議題 3.

シンポジウム「グローバル時代のデータ利用と可視化」を今秋10月15日に

開催することが決定された。ただし、資料3の趣旨説明、講演者、タイトル、時間配分は今後変更する可能性がある。

このシンポジウムと大きく関わる、「Society 5.0」について平田直副委員長から説明があった。Society 5.0は、第5期科学技術基本計画の中心となる目標で、第4次産業革命を起こし、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した超スマート社会（Society 5.0）を実現しようとするものである。また、地球人間圏分科会と特に関連が深い課題は第5期科学技術基本計画の4本柱の2本目の柱である「経済・社会的課題への対応」の「13の重要政策課題」に含まれている。

シンポジウムを開催するに際しては、本分科会がこれまで積み上げてきた過去のシンポジウム・出版物の内容を継承していく必要があるとの意見が出された。また、本分科会の、社会とのコミュニケーションを重視する姿勢を大切にし、高校生が聞いてもわかる程度の内容にしてほしいとの要望も出された。

村山泰啓委員に「データの利用と可視化」をテーマに追加講演を依頼し、承諾された。

シンポジウムは午後とし、午前中に分科会を開催する。日程調整に協力するよう依頼があった。

議題 4.

地球人間圏科学の「夢ロードマップ」の改定案について議論がなされた。なお、JpGUの地球人間圏セクションや今年度のJpGU大会のユニオンセッションで、改定のための議論がなされる予定である。

改定の大前提として、前バージョンから大幅な改訂はしないで、年代軸、キーワードなどの小修正に止めることとなっている。

改正案に対して、以下のような意見が出された。

- ・地球人間圏分科会のこれまでの活動の積み上げを重視すべきである。その意味で、分科会の過去の提言のキーワードを入れた方が良い。
- ・「社会との協働・協創」はもっと早い年代の所に書いた方が良い。
- ・ESDの文字を大きくし、その周りの5つの項目を再検討してはどうか。
- ・縦軸の内容は2つの異なる概念なので表現に工夫を。また、文言として長すぎるので、「サイエンス・テクノロジー・社会との関係」としてはどうか。

- ・「観測・モニタリング」を「観測・モニタリング・予測」に.
- ・「GSR」の「.」は曖昧なので削除してはどうか.

議題 5.

地球人間圏科学に関する出版物について次のような報告がなされた.

和文入門書は, 今年度 5 月の JpGU までに出版予定. 高校生以上なら読めるような平易な文章に修正をお願いしている. さらに, 若い人へのメッセージ性を込めた書籍とするよう工夫を凝らしている.

洋書は, 着実に出版に向かって動いている. 出版社からのコメント対応に時間がかかっている著者がおり, その点でやや遅れが見られる. 完全完成原稿は全体の半分程度の状況である. 5 月の連休までには完成させたい.

議題 6.

その他の議題は特になし.